

# 令和3年度 丹波篠山黒豆情報

第3号 令和3年9月15日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAIひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

\*丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

## 【生育】(令和3年9月15日丹波篠山市定点調査結果より)

1株当たり着莢数 ※大きさが1cm以上の莢を計数 (莢)	
令和3年	86.9
平年(過去10カ年平均)	90.2
平年比	96%
令和2年(参考)	76.1

※定点及び展示ほ(計9ほ場)

- 1株当たりの着莢数は86.9で、平年(過去10カ年平均)比96%とやや下回っていますが、過去5カ年平均(着莢数85.2)との比較では、102%とやや上回っています。
- 8月は多雨(平年の約2倍)・日照不足の気象条件であったことから、排水の悪いほ場や過繁茂傾向のほ場において着莢が悪い傾向です。
- ほ場別の着莢数は、最大・最小で2倍程度(最大112.4莢、最小55.7莢)の大きな差異があり、バラツキ傾向は同一ほ場でも見られました。

## 【病虫害】(令和3年9月15日丹波篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害 株率(%)	カメムシ類 虫数/株	ハスモンヨトウ 虫数/株	サヤムシガ 被害株率(%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
令和3年	5.33	0.17	4.33	0.00	0.06	0.56
平年(過去10カ年平均)	4.56	0.20	0.43	8.90	0.29	0.57
平年比	117%	85%	1007%	0%	21%	98%

- 梅雨明け後(7月17日頃)から8月上旬にかけて、立枯性病害の発生が多く見られました。8月中旬以降、被害拡大には至っていませんが、平年に比べてやや多い状況で推移しています。
- ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は増加傾向です。複数のほ場でハスモンヨトウが多く見られます。
- カメムシ類、サヤムシガの発生は平年に比べて少なく、ハダニ類の発生は平年と同程度です。また、フタスジヒメハムシが一部のほ場で多く見られます。

## 【今後の対策】

### 1 害虫対策

- ・ハスモンヨトウの幼虫による食害を受けて白く見える葉（白変葉）は除去し、早めの防除を実施してください。
- ・カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシなどは莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、発生に注意し、薬剤防除を徹底しましょう。

上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

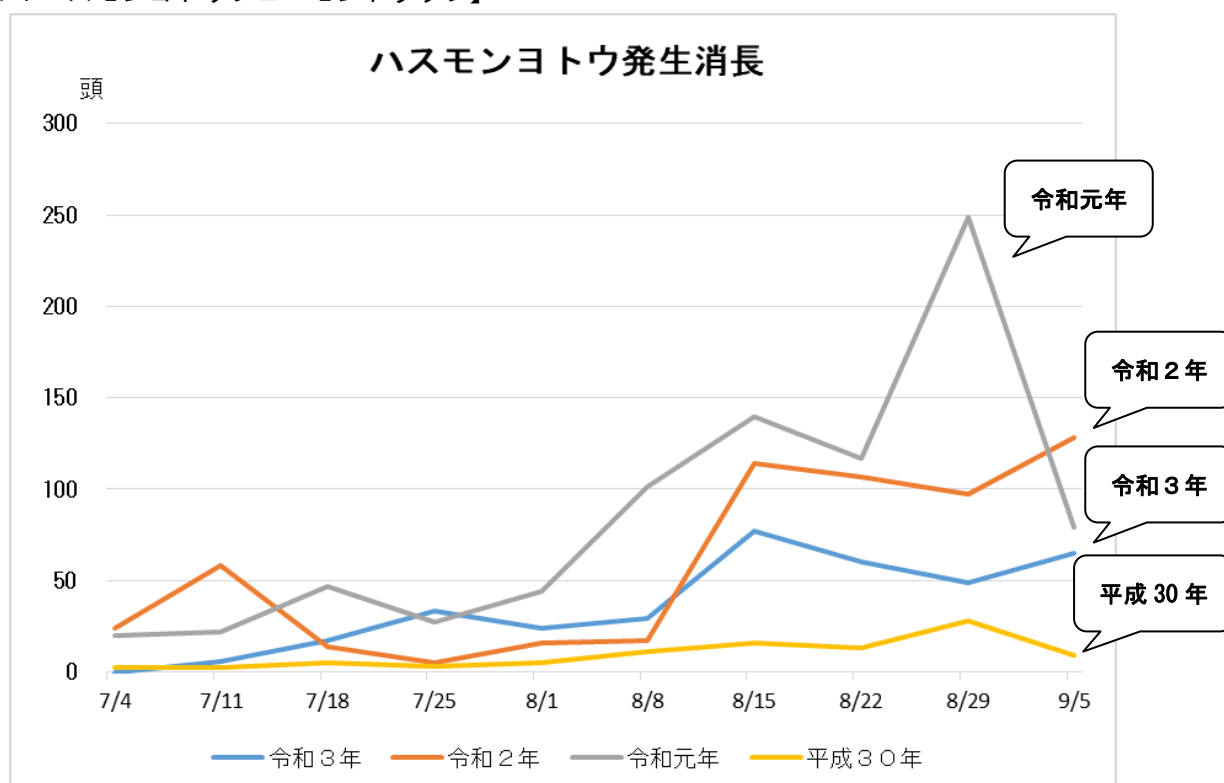
### 2 立枯性病害（茎疫病、黒根腐病）対策

- ・ほ場の排水対策を徹底し、立枯性病害が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分しましょう。

### 3 水管理・排水対策

- ・子実が肥大する 10 月下旬までは水管理が重要となります。晴天が続き、土壌が乾いた場合は、適宜灌水を行いましょ。
- ・湿害や立枯性病害の発生を防止するため、長雨やゲリラ豪雨、台風等により畝間に水が溜まっている場合は、排水対策（排水口を整えたり、排水溝と排水口を確実につなぐなど）に努めましょ。

【参考 1：ハスモンヨトウフェロモントラップ】



【参考2：気象データ（丹波篠山市消防本部データ）】

